



大津 純子
(Junko Ohtsu)

アントニン・ドヴォルザーク:ピアノ四重奏曲 二長調 作品23

Antonin Dvořák (1841-1904):

Quartet for Piano, Violin, Viola and Cello D major Op.23 (composed in 1875)

ロベルト・シューマン:ピアノ四重奏曲 変ホ長調 作品47

Robert Schumann (1810-56):

Quartet for Piano, Violin, Viola and Cello E b major Op.47 (Composed in 1842)

Violin

イリーナ・コフマン
(Irena Kofman)

Piano

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業。同音楽院在学中にジュネス・ミュージカル・インターナショナル 及び カーネギー・ホール共催のリサイタルにてニューヨーク・デビュー。ニューヨーク・タイムズ紙上、「卓越した演奏」「将来を大きく期待される演奏家」と絶賛される。その後、アメリカを拠点に演奏活動を開始。セント・ルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他と協演。リサイタル・プログラム《The Artistry of Junko Ohtsu》はパブリックTVネットワークにて全米40都市で放映され、ラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。国際交流基金派遣にてロシア、チェコ、オーストラリア、ベトナム、フィリピン、中南米諸国に於いて公演し賞賛を博す。『アメリカ』(レコード芸術誌「室内楽準推薦盤」選出)、『ヴァイオリンの詩〜ベル・エポック』、スペイン音楽選集『マラゲーニャ』(各・日本フォンテック)、『Prelude to a Kiss』(BAJ Records)などCD5枚をリリース。2011年2月、東北地方民謡集DVD『あいの風〜Wind from Northeast』をプロデュース・リリース(その収益全額は東日本大震災復興支援のために寄付)。その意外の企画とヴァイオリンによる津軽・南部地方民謡(編曲)演奏の新鮮なアプローチは称賛的となる。

2012年より「音楽の楽しみ」を届ける出張演奏会 《純子のミニ・キャラバン》を開始し、日本各地の幼稚園・小学校・中学校を訪問。東京・代官山ヒルサイドプラザにて年2回開催の《心のコンサート・シリーズ》は2015年に10周年を迎えた。1999年より国立情報学研究所主催《軽井沢土曜懇話会》(情報工学に於ける権威、故・猪瀬博氏開設)に招待を受けレクチャーコンサートを毎年開催。現在、執筆・講演の分野にも活動の場を広げている。

旧ソヴィエト連邦生まれ。アメリカ国籍を得て同国に移住し、マイアミ大学にて博士号取得。ソリスト、室内楽奏者、レコーディング・アーティスト、教育者としてアメリカを拠点にオーストリア、ドイツ、スイス、フランス、東欧を含むヨーロッパ各地、アジア諸国などにて幅広く多彩な活動を行っている。

『アルカンジェロ・ピアノ四重奏団』を設立し長年にわたり活動。また、ダライ ラマ14世による『Compassion as a Pillar of World Peace』大会に招かれて演奏。2000年以降、著名なベルギー人ピアニスト、アンドレ・デ・グロート氏とピアノ・デュオを組み3枚のレコーディング・アルバムをリリース。その演奏は「卓越した素晴らしい演奏」「華麗でコントロールされたフレーズング…満ち溢れる個性と深い音楽性…」と称賛されている。

現在、フロリダ州アトランティック大学准教授、及び、キーボード・スタディのディレクターを兼任。また、クレモナ国際音楽アカデミー教授としても活躍中。数多くの優秀な若手ピアニストを輩出し、優れた教師としての高い評価のもとthe American Protégé International Competition(アメリカン・プロテジェ・国際コンクール)から6年間にわたり特別ディプロマ受賞。2018年、アルメニア人作曲家による作品を国際的に紹介する積極的な演奏活動に対し、the Armenian Diaspora Ministerよりメダルを授章される。大津純子とはアメリカに於ける共演が多く、一緒に新作のレコーディングも行っている。

森口恭子
(Kyoko Moriguchi)

Viola

桐朋学園大学研究科修了。東京音楽大学を首席卒業、併せてNTTdocomoより奨学金を授与される。東京文化会館新進音楽家デビューコンサート、読売新人演奏会に出演。小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト、サイトウキネンフェスティバル若い人のための室内楽勉強会に参加。また、宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭、JTアートホール室内楽シリーズ、東京・春・音楽祭、東京のオペラの森、サイトウキネンフェスティバル松本「詩と音楽」などに出演。

ヴィオラを店村眞積、兎束俊之、Hartmut-Rohdeの各氏に師事。

現在、読売日本交響楽団、紀尾井シンフォニエッタ東京ヴィオラ奏者。

篠田 節子 (作家)
(Setsuko Shinoda)

Author

1978年東京学芸大学 学校教育学科卒業 八王子市役所入庁
1990年八王子市役所退職 「絹の変容」で集英社小説すばる新人賞受賞
1997年「ゴサインタン」で山本周五郎賞、
「女たちのジハード」で直木賞受賞。

2009年「仮想儀礼」で柴田錬三郎賞受賞。
2011年「スターバト・マーテル」で芸術選奨文部科学大臣賞受賞。
2015年「インドクリスタル」で中公文芸賞受賞。

最新刊は「鏡の背面」「肖像彫刻家」
長年にわたりアマチュア・チェリストとして友人たちと共に室内楽演奏を楽しんでいる。

渡部 玄一
(Gen-ichi Watanabe)

Cello

東京芸術大学附属高校を経て、桐朋学園大学卒業。同校研究科卒。93年NYのジュリアード音楽院卒。NY在住中には国連総本部やリンカーン・センターなどで数度に渡りリサイタルを開催、好評を博す。インディアナ大学でさらに研さんを積んだ後、帰国。以来、NHK-BS・NHK-FM出演をはじめ、ソリスト、室内楽、オーケストラ奏者として幅広く活躍している。03年より文化庁海外派遣員として一年間ドイツのミュンヘンにて研修。08年(株)東京アンサンブルギルド設立。通常のコンサート活動以外にも日本各地を訪れ300校以上の学校を訪問し、また介護施設、養護学校、少年院等の訪問演奏も積極的に行っている。

現在、読売日本交響楽団団員、及びフェリス女学院講師。

著作に「ワタナベ家のちょっと過剰な人びと」海竜社出版などがある。11年にファーストアルバム「It's Peaceful Here ここは良きところ」リリース。14年よりDHCシアターにて自身がホストを務める音楽番組「音の教養」の放送がスタートし、翌年には同番組コンサートを開催。15年2月 ドラゴンクエストの作曲家として知られている、すぎやまこういち氏プロデュース番組「日いつる国より」にゲストとして出演。



■コンサートお申込み書 (FAX送信先: 03-3486-8740)

お名前

ご連絡先

ご住所

名